

養護教諭による健康相談とチームによる 教育相談活動の評価

—保健室類回来室者と教育相談対象者の卒後状況と意識調査から—

元養護教諭 辻 のどか 盛 加代子
臨床心理士 原田 克巳

平成15年度に本校で体制づくりが始まった教育相談活動が平成25年度で11年目を迎えた。今回、本校で取り組まれてきた、健康相談及び教育相談について、主に保健室類回来室者と教育相談対象者の卒後の状況と、彼らの健康相談及び教育相談活動についての捉えに基づいて、検討を行った。

キーワード：健康相談 教育相談 支援体制 卒後の状況

1. はじめに

平成15年度から今日まで、本校では支援が必要な生徒に対し、健康相談及び教育相談を実施してきた。教育相談支援体制の構築・定着化により、その運営はスムーズになりつつある。一方で、生徒が抱える問題は年々複雑さを増していくように感じている。一人ひとりの状態に合わせての支援を、試行錯誤しながら行っているという状況は今日でも変わらない。今回、本校の教育相談体制が運営されてから平成25年度で11年目を迎えるにあたり、主に保健室や教育相談を利用した卒業生にアンケート調査を実施した。その結果をまとめ、評価し、附属高校相談活動体制の更なる発展を目指す。

2. 健康相談

養護教諭は学校で唯一生徒の身体を通して心に触れることができる専門職であることから、健康相談に取り組んでいる。

本校における健康相談は、本人の来室や訴えがきっかけで介入する機会が最も多い。しかしながら、その際も生徒自身が養護教諭に直接相談を持ちかけ

ることよりも、自分で話を切り出すことができずに「話しかけてほしい」というサインを出すことによって、養護教諭からの働きかけを待つ生徒が多い。そのため、そうした生徒のサインを的確に捉えられるかどうか健康相談の鍵となる。また、生徒自らが養護教諭に直接的に訴えを示さない場合に、養護教諭や担任、部活動顧問、友人、保護者からは気になる様子が見られる場合もある。いずれの者からであろうが、気がかりな様子が見られれば、養護教諭から当該生徒に声かけをして健康相談につなげている。健康診断や修学旅行前の聞き取り調査なども有用であり、それらの結果内容自体を受けて健康相談につなげることもあれば、それらをきっかけとして養護教諭から語りかけることで、健康相談につなげることもある。

悩みを抱える生徒自身から訴えを示してもらうためにも、また担任や友人、保護者から気がかりなことを話してもらうためにも、生徒や教員、保護者との信頼関係の構築、維持を日々努めている。

その工夫は、常に話しかけやすい雰囲気を出すよう努めること、生徒から話しかけられたときは作業

の手を止めてしっかりと話を聴くこと、廊下ですれ違ふ時や学校行事など、何気ない時に折に触れて生徒に話しかけること、養護教諭が得た情報を養護教諭だけが抱え込んで済まさないよう、管理職や担任の「報連相」を密に行うこと、保護者への連絡は誤解や不快感を与えないように丁寧にこまめに行うことなど、である。

ほとんどの生徒にとって、高校の保健室、養護教諭は、人生で出会う最後の保健室、養護教諭になる可能性が高い。このことを常に念頭におき、生徒の将来に可能性や選択肢が最大限に残る、もしくは広がるような支援を行うこと、また、卒業後の長い人生の中で、困った時には誰かに相談すればよいのだと思ってもらえるような、良好な体験を養護教諭との健康相談を通して得てもらえることを意識している。

このような観点に立って健康相談を実施する際、一番大切なことは、「容姿や成績・進学先などに関わらず、あなたのこと大事だよ、心配だよ」という思いが伝わるように接することである。そのため、健康相談の場では、対話の中でこのことをしっかりと言葉にして伝えるようにしている。

3. 教育相談

本校における教育相談のコーディネーターは、養護教諭が行っている。保健室に頻繁に訪れる生徒の様子や、担任が気がかりに感じている事柄などを養護教諭が把握し、健康相談だけでなく、より専門的な観点から助言が得られると良いだろうと考えた場合や、じっくりと時間をとって生徒自らが自分の心情を語ることによって、悩みが軽減されるのではないかと考えた場合、また、保護者の理解と協力が必要と感じられたり医療との連携が有効と感じられた場合などに教育相談につなげている。

本校における教育相談は、金沢大学に所属する臨床心理士の資格を有した教員との連携のもとに行っ

ている。平成14年度に教育学部附属教育実践総合センター（現在学校教育学類附属教育実践支援センター）内に心理臨床相談室が立ち上がったことを受け、相談員となっている大学教員に依頼し、平成15年度より連携を開始した。

連携開始当初は、相談員が3名おり、それぞれが月に2回程度、定期的に本校の教育相談に当たられるようにした。平成22年度からは、相談員となっている大学教員の転出等の事情により、連携が図れる大学教員が1名となったため、月割り当ての回数を制限することとはせず、随時依頼をかけて協力を得る方法をとっている。

どの相談員に依頼するか、生徒本人の個人面談とするか、保護者面談とするか、関係教員も含めた3者・4者面談とするかなどの面接構造はどうか、面接日時はいつにするか、などの判断・決定は、養護教諭が生徒や保護者のニーズを見て行っている。

教育相談は「チーム支援」を旨としている。養護教諭は会議等の事情がある場合や、生徒や保護者の希望がある場合を除き、すべての相談に同席している。また、必要に応じて関係教員が相談に参加できるようコーディネートし、支援に必要な人的資源が一堂に会して相談が行えるようにしている。このことによって、生徒や保護者の心情や悩みの理解を本校教員で共有し、問題の軽減や解消を関係者全員で考え、具体的な支援の実施に導くことを大切にしている。

4. 教育相談件数と教育相談の主な内容

平成15年度から平成25年度末に至るまでの教育相談の対象者は、70名である。各年度の新規相談の受理件数と相談回数は、Table 1に示すとおりである。なお、各年度の相談回数は、前年度からの継続相談者の相談も計上しているため、新規相談者のみの相談回数とは対応していない。

また、これまでの11年間で支援に当たった70名の

生徒たちが抱えている主な問題は、Table 2に示すとおりである。生徒が抱えている問題は複合的なものであるが、分類の都合上、最も表面に現れている状態で計上した。「不登校もしくは別室登校」の状態になっている生徒の不登校・別室登校理由は、対人関係上の問題もしくは学習上の問題であり、この二つが本校の生徒が示す主要な問題と言える。また、睡眠障害や気分障害の診断を得て服薬治療を受けている生徒もあり、摂食障害とあわせて、医療的ケアを要している生徒も少なからず見られるのも、本校の特徴と言える。

Table 1 年度ごとの新規相談受理件数と相談回数

年度	新規受理件数	相談回数
15年度	8	32
16年度	6	87
17年度	9	116
18年度	6	66
19年度	6	64
20年度	5	65
21年度	4	33
22年度	3	26
23年度	3	48
24年度	6	45
25年度	14	98
計	70	680

Table 2 相談の主な内容

相談内容（主訴）	件数
別室登校・不登校（傾向）	35件
対人関係上の悩み	8件
学習上の悩み	3件
家族関係上の悩み	4件
反社会的行動	2件
摂食障害	5件
発達障害（疑い）	2件
希死念慮	1件
合計	60件

これまでの11年間の活動の中での680回に及ぶ相談の内、生徒本人が参加した相談は190回（27.9%）、保護者が参加した相談は354回（52.1%）、教員が参加した相談は475回（69.9%）である。なお、同一回の相談に生徒本人も保護者も教員も参加している場合もあるため、上記回数の合計は680とはならない。全相談のほぼ5割に保護者が参加していること、また、ほぼ7割に教員が参加しているという実情は、本校がチーム支援の考えを重視していることを実証するものである。

5. 卒業生の意識調査の目的と方法

(1) 目的

保健室における養護教諭による健康相談と、チーム支援を旨とした教育相談について、その取組の評価を実際の利用者の意見に基づいて行うことを目的とする。

(2) 方法

調査時期 2014年2月

調査対象 本校卒業生の内、保健室類回来室者および教育相談対象者

調査手続き 郵送法によるアンケート調査を行った。質問内容は、保健室利用の理由や保健室を利用して初めての感想、教育相談を受けて初めての感想、現在の状況などについて尋ねるもので、主に自由記述での回答を求めた。

6. 結果と分析

(1) 回答者の属性

回答があったのは33名であり、その内男性が10名、女性が23名であった。また、調査時浪人生である者が5名、大学生である者が23名、就職している者が1名、アルバイト生活者が1名、不明が3名であった。高校生時、保健室に類回来室していた者は32名であり、教育相談の対象となった

者は1名であった。加えて、不登校経験を有する者が6名であり、その内1名は中学2年生時に、3名は本校2年生時に、4名は本校3年生時に不登校であったという回答であった。

(2) 保健室をよく利用するようになった主な理由

保健室をよく利用するようになった主な理由を尋ねたところ、「朝起きられなくなったから」「熱が下がらなかったから」「よくおなかが痛くなったから」というような体調不良を挙げた者が10名、「教室にいても授業についていくことができず、ただじっと座っていることがつらかったから」「勉強したくなかったから」といった、勉強への抵抗感があったことを挙げた者が7名、「友達が行っていたから」「保健室の人たちといると安心できたから」「保健室にいと落ち着いたから」「すごく居心地がよかったから」といった、居心地のよさを挙げた者が11名、「気軽に先生に相談したり話したりできたから」「友達に相談しづらいことも相談できたから」といった、養護教諭に相談できたことを挙げた者が5名であった。これらのことから、体調不良や勉強への抵抗感をきっかけとして保健室に来室したところ、そこで出会う友人や養護教諭との対話で居心地の良さを感じ、また友人には相談できないようなことも養護教諭には相談できたということから、彼らが頻繁に来室するようになったということがうかがえる。

(3) 保健室をよく利用していたことに対する現在の感想

保健室をよく利用していた当時はふり返って、現在どのように思うかを尋ねたところ、「とてもよかったと思う」と回答した者が16名、「よかったと思う」と回答した者が15名、「どのようにも思わない」と回答した者が1名、無回答が1名であった。したがって、回答のあった保健室頻回来室者のほとんどが、肯定的な評価をしているという結

果であった。上記評価をするに至った具体的な理由は何かを自由記述により尋ねたところ、Table 3に示す回答が得られた。分類すると、「楽しめる場」であったこと、「友人関係を広げる場」であったこと、「居心地がよく癒やしが得られリフレッシュできる場」であったこと、「相談ができる場」であったこと、の4つに分けられた。多くの者が、「楽しかった」と答えており、他学年・他クラスの生徒との出会いや会話、養護教諭との会話が心の支えとなったということであった。また、保健室の雰囲気が和やかであり、利用のしやすさがあったことで、保健室を利用することが学校生活にマイナスの働きとなるのではなく、相談ができて悩みの解消ができ、リフレッシュすることができる場であったことから、むしろ意欲を高めるのに資していたということであった。「逃げ場が学校内にあったおかげで、学校をやめずにすんだ」という言葉からは、彼らの継続登校の苦しさが伺え、養護教諭としては職責の重さを改めて感じさせられた。

(4) 本校の生活で感じていた困難

本校の生活でどのようなことに困難を感じていたか、またどのような支援があればよかったと思うかを尋ねたところ、Table 4に示す回答が得られた。分類すると、「学業・進路」について、「友人関係」について、通学の大変さや自分自身の気持ちの持ちようについての言及がなされている「その他」の3つに分けられた。本校は進学校であるがゆえに、学業・進路上の悩みを持つ者は多い。また、本学には附属幼稚園、附属小学校、附属中学校があり、本校においては長年学校を同じくした附属中学校からの入学者と公私立中学校からの入学者との間で生じる人間関係上の悩みを持つ者も多い。保健室を頻繁に利用した彼らもまた、こうした悩みを抱えていたことが理解できる。また、得たかった支援についての記述から、学業

上の悩みについては、学力に応じた対応であることが明確に読み取れるが、友人関係上の悩みについては、当事者自身これといった明確な解決法を見いだせないことがうかがえた。

(5) 保健室登校・相談室登校についての思い

回答者の内、保健室登校・別室登校をしていた者は、5名であった。彼らの当時の気持ちは、それぞれ「めんどくさかった」「苦しかった」「居場所がなかった。帰りたかった。消えたかった。楽しくなかった」「登校するのに精一杯で、とにかく眠たかった。どうすればいいのか分からなかった」「友達には会いたいけれど授業に出るのがつらい。できない自分が嫌だった。登校するのがつらかった」というものであった。そのような気持ちにある中で、保健室登校・別室登校をしていたことについては、「必要だったし、自分の助けになっていた」「保健室登校は甘え。でも私はその甘えがないと生きていけなかった」「個性の一つかもしれない...という開き直り。ありがちで、個性の一つにもならないかもしれないけど」「好き勝手にできる時期があって、その間にいろいろと悩むことができたので良かったと思っている。自分にとっては必要な時間だったと思う」「ある意味で良い人生経験になった。悩んでいる人間の気持ちは以前よりも理解できるようになったと思う」とそれぞれにふり返っている。保健室登校・別室登校をよしとはしないながらも、現在の自分につながっている必要なものであったという彼らの心情が読み取れる。保健室登校・別室登校をすることでマイナスに働いたことについては、「特になし」「周りとはいろんな差をつけられましたが、私自身にとってマイナスになったとは思っていない」「直接困ったことというのは記憶にない」と、マイナス面はなかったことを3名が述べていたが、2名が「勉強不足。大学の面接試験において、出席日数についてしつこく質問を受けた」「勉強し

ていなかったので大学へ進学しようとしたときに学力がなくて困った」と、進学に際しての勉強の遅れ等を挙げていた。一方、プラスに働いたことについては、「社会人になる前に挫折を経験しておいてよかったのかも。社会に出てからあのようになっては人生の取り返しのつかないことになっている」「頑張りすぎないこと、息抜きすることを学んだ」「周りの人は自分が思っているほど、保健室登校のことを気にしていない、ということを知ることができた」「他にも悩んでいる人が大勢いることを知れた。そんな生徒へのケアの必要性を考えるよいきっかけとなった」「先生（養護教諭）に会えた」とふり返っている。彼らそれぞれにおいて、気づきや学び、そして成長が得られたということがうかがえる。

(6) 教育相談の利用について

回答者の内、心理臨床相談室の大学教員と面談をもった者は1名であった。面談については、「とてもよかったと思う」という評価であった。面談の効果としては、「当時何を思い、何を悩んでいたのか、ある程度明確にすることができ、今振り返り際の目安になる」と述べており、思い悩んだ過去の自分と現在を生きる自分との間を橋渡しするような役割として、今も面談によって得た影響が心の内にあることがうかがえる。

また、今も印象に残っていることとして、「優しい先生だなという印象。大学の先生の部屋でお話を聞いたことにより、大学（と大学の研究室）へのあこがれが強くなった」とも述べてもおり、進学意欲の向上や将来展望の明確化にもつながっていたことが読み取れ、相談を受けた者が心理臨床の専門家であるというだけでなく、大学教員であったということの意義がうかがえる。

(7) 養護教諭の関わり及び言動に対する印象

全員に対して、養護教諭からの関わりや言動で印象に残っていることはどんなことか尋ねた結果

26名から回答を得た (Table 5)。

たわいもない会話を交わしたことで、そして相談したいときには相談できたことが印象に残っているということであった。またそのことを通じて、彼らが安心感をもち、喜びを感じてくれていたことがうかがえた。一方では、本校の保健室利用の約束事として、長時間保健室に居続けることを認めていないことから、授業出席の促しによって苦痛感を覚えさせてしまったことは、反省課題である。常に話しかけやすい雰囲気作りに努めていたつもりではあるが、ときには厳しく生徒の背中を押すことも必要である。その際には、より十分に生徒の気持ちを聴き、気持ちを汲んだ上での促しとなるよう、気をつけねばなるまい。

(7) 養護教諭以外の教職員の関わり及び言動に対する印象

全員に対して、担任からの関わりや言動で印象に残っていることはどんなことか尋ねた結果、24名から回答を得た (Table 6)。また、養護教諭と担任以外の教職員からの関わりや言動で印象に残っていることはどんなことかも尋ねた結果、17名から回答を得た (Table 7)。

担任については、進路について悩んでいるときに親身になって共に考えてくれたこと、折に触れて励ましがあつたこと、話しやすかつたことが多く挙げられていた。その他の教職員については、部活動顧問や教科担当の教員などの助言や支援が挙げられていた。また、担任も含めた教職員についての印象として、「個性的」という言葉がいくつも挙げられていた。彼らが言うように、本校の教職員はそれぞれがユニークである。その際立つ個別性の一方、「どの先生も優しく、自分たちのことをちゃんと真剣に考えてくれているな」という印象でした。「みんな博識で面白くて、優しい!!」「どの先生も優しくしてもらった」というように、多くの卒業生が、優しさや真摯さを感じ取っても

いる。これらのことから、教職員一人一人の個性の上に、本校独自である自主自律の校風に基づいた教職員の生徒に対する信頼感が共有されているということが、生徒にも伝わっているということであろう。

本校における教育相談では、全相談の69.9%に教職員が参加しているが、これまでの11年間、70名に対する取組の中で、多くの教職員が教育相談に参加している。その教育相談に関わることを通じて、またその教育相談がチーム支援を旨としていることを一人一人の教職員が感じ取り、日々の指導の中で展開されていると認めてよいであろう。

(8) 将来への展望

全員に対して、将来への期待・夢・展望について尋ねたところ、Table 8の回答が得られた。回答からは迷いは持ちながらも、目標を定めていたり、前向きな気持ちで過ごしていたりする様子が見えうかがえる。

(9) 今の自分から当時の自分へのメッセージと後輩へのメッセージ

同じく全員に対して、現在の自分から当時の自分へメッセージを伝えることができたとしたら、どのようなことを伝えたいかと尋ねたところ、Table 9のような言葉が得られた。

また、現在保健室を頻繁に利用している生徒、別室登校をしている生徒に向けてのメッセージを求めたところ、Table 10に示したように、非常に多くのメッセージが寄せられた。大きな悩みを抱えていた当時があったからこそ今の自分があるのだ、という肯定的な観点から、過去の自分に対しても後輩に対しても、あたたかい励ましと応援の言葉が並んでいる。在校生たちにこれらの言葉を贈ることができれば、彼らにとっては顔も名も知らない先輩の言葉ではあるが、同じように悩んでいた人がいたことや、その悩みがいずれは過去のものになりうることを、その悩みがあったゆえに成

長を得たことを知り、心強く感じることであろう。
一方、当時の自分へのメッセージの中には、もう

少し勉強をしておけばよかったという後悔の念が
あることもうかがい知れる。

Table 3 評価の理由

楽しめる場	楽しかった。
	楽しかった。気楽だった。
	楽しかったです！
	楽しかったが、少し依存しすぎてしまったと感じている。
	すごく楽しかったし、高校生活の思い出にもなってる！本当は最初のころは嫌だった！恥ずかしかったし…でも何度も手紙をくれて、何回も話を聞いてくれたB先生がいてくれてよかったと思う。
友人関係を広げる場	先生や他の回生の人などいろんな人とおしゃべりができて楽しかった。良い思い出。
	文系クラスや他クラス、他学年と話すことができた。
	情けない気持ちも強かったが、保健室を利用する他の人たちとも仲良くなり、卒業後も付き合える貴重な友人を得た。
	クラスが一緒になったことのない友達ができ、いろんなことを相談できる大好きな場所だったため。
居心地がよく癒やしが得られリフレッシュできる場	附属高校の保健室はとても入りやすく、「保健室＝何か問題のある人が行く所」というイメージがなかったのが良いと思う。
	友人もよく保健室を利用して、常に明るく穏やかな雰囲気だったので入りやすくもあり、出ていきやすくもあった。保健室を利用したことが勉学の支障になったわけでもなく、むしろモチベーション維持の助けにもなり、よかったと思う。
	3年生後半はほぼ毎日保健室でしゃべっていた。受験期で「勉強しろ」とばかり言われる中、先生や友達とムダ話するのは息抜きになったし、とても楽しかった。
	保健室に行った後に勉強に戻るときリフレッシュできてメリハリもついてよかった。保健室でできた友達もいて楽しかったし、今でもみんなに会えてうれしい。
	すごく癒されたし心身ともに元気が出た。
	先生と話して楽しかったし、癒されたし、元気をもらえたから。
	精神的な支えになり、最終的に立ち直ることができた。今に自分につながっていると思う。
	症状が出たとき、学校では唯一落ち着ける場所だった。
どんな形であれ、学校に行っていたことはよかったことだと思っています。「保健室に行くことは逃避である。」という気持ちもあったし、今でもあるが、逃げ場が学校内にあったおかげで、学校を辞めずにすんだのだと考えています。	

相談 が で き る 場	私自身はよく相談にのってもらったり、よかったことばかりでしたが、1年生とかは3年生が群れすぎて利用しづらかったかな...と申し訳なくもあります。
	時には楽しく話をする場になり、時には真面目に相談にのってもらえる場にもなっていたから。
	先生や保健室によくいる面子と会話するのが楽しかったです。相談にものってもらったりしてすごくありがたかったです。
	いろいろと相談ができた。
	悩みの解消につながったから。
	ただ、もっとちゃんと授業に出ていればもっと学力は高かったと思う。今の自分に満足はしている。

Table 4 困難さ

学 業 ・ 進 路	勉強が難しい。
	勉強が大変だったけど、学校には十分支えられていたと思います。
	勉強がプレッシャーになっていた。みんな頭が良かったから...
	周囲の人たちは勉強ができるので、少し頑張ったところで順位などの結果が得られず、無力感を感じた。授業という形式上仕方のないことなのですが、授業レベルについていけない人が出てくるので、下は下のレベルに合わせた課題や補習があったら良かったと思います。
	勉強がうまくいかないこと。出来のよくない人への課題とか補習とかあってほしかった。
	周りが勉強をたくさんしているけど、自分は勉強しなくておいていかれている感じがした
	とにかく、授業、宿題の難しさ、量の多さを感じていた。
	苦手な教科の授業についていくことが難しく、少し自分だけ取り残される感じがしていた。それをもう少し早く(1・2年の時点で)その教科の先生に相談できる機会があればよかったかなと思う。
進路のこと。カウンセリングなど(気軽にできるようになれば)。	
友 人 関 係	中学から附属の人たちの間での内輪の話に入りづらかった。しばらくなじめず外部の中学出身の子と話していた。
	人間関係が狭い。過保護すぎても嫌だけど、誰か話せる人がいればいいと思う。
	最初は特にないって思ったけど、私はあんまり附属の友達が好きじゃなかった。たくさんグループがあったし、もちろん大好きな友達もいたけど。学校生活においてめんどくさいと思ったのはそれくらいかな。でもこれは個人的なことだし、学校は全力で支援してくれたと思っている。
	「外部生だから」ってよく言われたこと。
人数が少ないため、交友関係のトラブルが生じやすい。支援については思いつかない。	
そ の 他	附属高校に入学したこと自体が間違っていたと思う。どんな支援があればよかったか分からない。
	友達のトラブルはなかったけれど、友達と比べて自己嫌悪に陥ることは多かった。今までのように、学校の先生たちが話しやすい先生でいてくれることが一番いいと思います。
	学校が遠く朝の通学で疲れてしまった。
	自分がめんどくさかっただけ。
	学校のせいでは絶対はない。自分自身の問題である。
特に困難はありませんでした。(附属中出身)	

Table 5 養護教諭の関わりや言動で印象に残ったこと

地元ネタ，世間話。ここでは挙げきれないほどあります。
話を聴いてくれたり，一緒になっておしゃべりできてうれしかった。
毎日のように日常の些細なこと，恋愛話とかたくさんのことを話して，そこに男女関係なく友達が会話に入ってきて，すごく楽しかった。よく，B先生はお母さんみたいだとみんなで言った。
とても優しく接してもらった印象が残っている。無理強いせず，そっとしておいてくれた。また，世間話に付き合ってくれた。
くだらない話でも相手になってもらえて嬉しかったです。親と大ゲンカしたときも，大人の視点でアドバイス(?)してもらえて助かりました。
親身にくだらない相談でも付き合ってくれてうれしかった。
生徒と近い立場?で会話や相談を聞いてくれたため話しやすくてとてもよかったです。(だからと言って敬語をあまり使わなかったのはよくなかったので謝ります。すみませんでした。)
いつも明るくて，親身になって話してくれて嬉しかったです。
悩みを時間をかけて真剣に聴いてくれた。
B先生は可愛くて，優しくて，親身になってくれて，大好き。B先生の言葉がいつも力になってた!
人間関係のことで悩んでいた時によく話を聞いてもらいました。人生の先輩としてアドバイスを頂けてありがたかったです。
体調に変化があるとすぐ相談にのってくれたり，アドバイスをくれたりした。
なかなか親や友達に相談できないことの話聞いてくれてすごく楽になった。
以前相談したことや話したことを覚えていてくれたことは，とても嬉しかったです。「頑張ってることは分かってるよ」というようなことを言われたときに信頼のある先生だと素直になぐさめられるのだなと思いました。(今の予備校で言われたときは響きませんでした。笑)
A先生にもB先生にも身体や心が弱った時に親身に話を聞いてもらい，大変うれしかった。
いつも笑顔で，真剣な時は真剣に話をしてくれたこと。たわいもない話までちゃんと聴いてくれて嬉しかったです。あと，いつも名前を呼んでくれて，覚えてくれてるんだと思った。
「ちゃんと授業でまっし」って何回も言われた。普通に受け入れられていたらもっと授業に出なかったと思う。
B先生「授業行きなさい!」私「くそ保健室だな!」と言ったのは覚えている。
普段から保健室にいたので，本当に具合の悪い日にも「教室に行きなさい」と追い出された。保健室利用者が多く大変だったとは思いますが，もう少し話したりしたかったです。(話を聴いてほしかった。)
友人のように接してくれたが，きちんとしかられたこともあり，それがとても良い印象として残っている。
年齢が近くて話しやすかった。
3年の12月に進路を看護に変えたとき，相談に乗ってくれたこと。
名前と呼ばれていたこと。優しくしてくれた。
生徒が楽しく居心地がいいようにいつも気を配ってくれました。
にこにこしているときが多く，保健室が明るい空気を持っていた。
すごく優しくて明るいイメージがある。

Table 6 担任の関わりや言動で印象に残っていること

悩み事を打ち明けたらとことん聞いてくれたこと。
数多くの調査書を書いていただき、頭の下がる思いです。
進路のことで心配されたこともあったけど、何かと話しかけてもらえた。
進路について一生懸命考えてくれたこと。
進路のことなど、悩んでいるときに励ましてくれた。
遅刻しなかったり授業に出席した際に褒めてくれた。登校していないと連絡をくれた。
数学が楽しい、好きだと言ったら「先生になったとき一緒に働くかもね」と言われてうれしくてがんばって先生を目指そうと思った。
雑談してもらえたのが楽しかった。
T先生大好き。心配かけてごめんなさい。いつも一生懸命話を聞いてくれて、いろんな話をしてくれて、本当に本当にT先生のおかげで今の自分があると思うし、T先生が担任で良かった。
入学してすぐの頃に、中学生の時にいじめられてたのをあらかじめ伝えてあったせいか、よく気にかけてくれたこと。
担任から「彼氏ができれば元気になる!!」と言われたのが衝撃的だった(笑)
担任はいつも励ましてくれたので心強かった。自分の意思を尊重してくれてありがたかった。
3年間すべて違う先生に持ってもらいました。どの先生も優しく、自分たちのことをちゃんと真剣に考えてくれているなという印象でした。
S先生には勉強の面でも部活の面でも温かみのある厳しさをもってして指導していただき、大変感謝している。
S先生が私の部屋まで来てくれた。
たまに頼りなかったけど、厳しいことも言われたりして、今では感謝しています。夏に「プライドなくなっちゃったの?」って言われたのは忘れられないです。
担任になった先生はみんな話しやすかった。
「よく卒業してくれたな。お前は辞めるかもしれんと思っとった」。卒業式の日担任の先生に言われた言葉です。こんな自分でも気にかけてくれていた、心配してくれていたことがとてもうれしかったです。
どの先生も個性的で面白く、やさしい方々でした。ものまねが流行っていたことがそれを物語っている気がします。
授業をさぼっていたのは自分の責任だけど、そこで担任に冷たい態度をとられていたら不登校になっていたかもしれない。だから仲良くしてくれた先生方には感謝している。
フランクに接してもらったので良いところも悪いところも指摘してもらえ、自分のことを見つめるのに助かりました。
あんまり担任の先生と話す機会がなかったように思う。だけど、気さくに面白い話をしてくれました。もう少し進路の話を一緒にできたらよかったなとも思う。
進路のことをあまりよく考えてくれなかった。

Table 7 教職員（養護教諭及び担任以外）の関わりや言動で印象に残っていること

K先生にはよくいろんな相談をしていました。
卒業させて下さり、非常に感謝しております。
個性的で面白いと思います。
不思議な先生が多くて、どう喋っていいかわからなかった。
部の顧問、副顧問の方々とも話したり楽しかった。
部活の顧問の先生にもよく自分が周りから見えてどういう人なのか等アドバイスをもらいました。
部活の顧問の先生からとても元気をもらった。
教務室でお昼をとらせてくれたこと。デスクの横に勉強するスペースを作ってくれたこと。
すごく悲しかった時に「泣きたい時は泣いてもいいんやよ」と言ってくれて、ずっと心が楽になったこと。いつも時間をさいて勉強を見てくれたり、話をできる先生がいたことは、この勉強をされていていいんだなと安心感を覚えました。
どの先生も受験は大変だとばかり言っていたが、勉強しろとは言わなかった。
T先生も協力してくれて嬉しかった。いろんなことがあり、不安だったけどT先生の言葉に救われたこともたくさんあります。附属の先生全員に温かく見守ってもらっていたと思っているし、本当に嬉しかったです。
図書室の司書さんが辞めるとき、「〇君には伝えとくね」と言われたのが印象に残っている。
みんな博識でおもしろくて、優しい!!! 嫌いな先生は一人もいませんでした。
どの教職員の方もみな生徒に親切だったと思う。
どの先生にも優しくしてもらいました。
英語の先生が忙しい中、自分ために課題を用意してくれたり教えてくれたりして、とても嬉しかったです。また、それを見てか他の先生方も勉強を教えてくださいようになり、自分はこの学校にいていいのだと嬉しくなったのを覚えています。
運動会や記念祭など応援団の応援や後夜祭で一緒に楽しんでくれた。

Table 8 将来への期待・夢・展望

当面は獣医学専修への進学を目標に努力したい。
海外でのPKO活動や災害派遣に関わることになると思うので非常にやりがいのある仕事であると考えている。また、日本の安全保障体制の確立に少しでも寄与できればと思う。
頑張って看護師長もしくは大学の教員になります！
来年度から実家のあるX市役所に就職することになりました。国際交流部門での採用です。ずっと民間交流に興味があり、来年度からのことが楽しみです。もっと英語とロシア語を勉強して役に立てるようになりたいです。A先生、B先生ありがとうございました。高3のとき保健室に行かなかったら今の自分はなかったと思います。
大好きな人たちと幸せに過ごしていきたい。
今探しています。
一人一人の生徒をしっかりと見守って一緒に成長していけるような先生になりたいと思います。今まで素敵な先生に出会いすぎて、自分は足元にも及びませんが、一步一步頑張っていきたいです。

就活中で、できればメディア系の仕事をして、金沢のことを多くの人に知ってもらい好きになってほしい。しばらくはそうした好きなことをして社会人をしてから、学校の先生になろうと思う。でもやっぱり一番は結婚したいです。
とりあえず一歩ずつ頑張る。
自分のやりたいことを見つけること。
絶対アナウンサーになって有名になる！
大学3年生こそちゃんと学校に通いたいと思っています。
最近野球を始め、ピッチャーでプロ入りするのが夢です。とはいえ、現実には就活真っ只中、やりたい仕事がないのでできるだけ給料がいいところに勤めたいです。そして早く自立して、猫を飼いたいです。
とにかく今は就職すること！そしていつか結婚して自分の子どもも満点の高校生活を送れるようサポートすること。
自己の夢としては大学院への進学。東京への再進出。
周りの人々から信頼されるような教師になること。
それがあまりないことが高校からの悩みです。でも、1年まわり道した分深みのある人になりたい。
Y大学カウンセリング専攻に合格する！心理学を学んで、自分のやりたいことをしっかり見つけて、人のために何かできる人になりたい。
獣医師の資格を持って、人を幸せにする仕事をし、あたたかい家庭を持つ。
今は具体的な目標があり、すべて未来につながっていると感じることができるので、勉強がとても楽しい。院に進学したい、留学したい、美術館で働きたい。今の自分があるのも、B先生が高校時代に寄り添ってくれたからだだと思います。本当にありがとうございました。
小児科医になって、病気の子どもの未来を作りたいです。
一流の歯科医師になりたいです。
高校時代の反省をこれからの将来に活かしたいです。まだ夢も目標も明確に見えておらず、少し焦っているのが現状です。でも、同期の友達に負けたくない人の役に立つ仕事に関わっていきたいなあと考えてます。
心理学を学んで、不登校児などのやる気を引き出せるようになりたい。学校の先生になりたいと思っています。
もう少しアグレッシブな人になりたい。
大切な人と慎ましく幸せに暮らしたいです。頑張ります。

Table 9 当時の自分へのメッセージ

もっと冷静になって自分のことを考えてほしい。
もう少しちゃんと勉強しましょう！
勉強しろ。学校いけ。
勉強って大切。
大学は楽しいところです。それから、適度な運動をするように。
クラスの友達も保健室の友達も大切に、学校生活を楽しんでください。

いいときもあれば、悪いときもあるということ。
興味のない授業もちゃんと目を開けて聞いて、あきらめないで！今周りにいる友達を大切にして充実した高校生活、今しかないから、思い切り楽しんでください。
心配しなくても大学に入って、ちゃんと大学生しています。なんなら、サークルに入って彼氏作って友達沢山できてエンジョイしてます。いろんな人と関わって少しずつ大人になります。もっと楽しい高校生活がしたかったかと思ってるかもしれないけど、今になってみればすごく楽しい高校生活だったと胸を張って言えます。だから未来のことばかり心配せずに、今を楽しんでいたらいいと思います。
頑張れ。
もっと食べて。ストレスを抱えないで。
お金が無くなったからと言って家出を断念しないでください。当時好きだった女性はじきに他の人と結婚します。
私の高校生活は当時は悩むこともあったりしたと思うけど、今思えば楽しくて仕方ない満点の高校生活だったと思います。何でもかんでもやってみようとしてくれてありがとう！笑
高校時代の3か月は長く感じるけれども、社会人の3か月、3年はあつという間なので、気にするな…と。
ささいなことでも何でも、もっと周りの人に相談するべきだし、頼るべき。
今しかやれないことをやればいい。けど、今すべきこともやってほしい。Tomorrow never comes. (今日すべきことは今日せよ) 私はこれができなかったなあと後悔しているので。
もっとちゃんと勉強すれば浪人なんてしなかったのに…と少し思うけれど、浪人の1年もたくさんのことを学びました。附属高校での3年間は今の自分の大切な思い出です。めいっぱい楽しんでください。
入院もしたし、浪人もしたけど、そのおかげで今お前は楽しい生活を送ってる。あのとき自殺未遂した兄貴は今年お父さんになるよ。姉にも女の子がいる。そしてお前はかわいい彼女と同棲してる。
ムダと思ったことも今ではムダでなかったと気付けたので、安心してほしいということ。
もっと周囲への感謝の気持ちを持ってほしいです。
「今いい経験してるよ」ってこと。
何もありません。
もっと勉強していればよかった、の一言に尽きます。そして、素直になりなさい、とも伝えたいです。
なんとかなるものだよ。少し頑張ろうと思ったその気持ちを大切にしてほしい。
もっと冷静に物事を考えて後悔しない決断してほしい。
高校の時の友人やクラスメートは卒業してからもつながりが強いです。大事にしてください。

Table 10 後輩へのメッセージ

それでいいと思います。つらい時に甘えられる場所があつていいと思います。
無理して教室に行かなくてもいいと思う。
悩みは一人で抱え込まず、誰かに必ず話すこと。念のため病院に行くことを考えてもいいと思う。
どうしようもないことだってあります。
心を開いて、先生とたくさんたくさん会話をするのが大事だと思います。最初は私もすごく嫌だった保健室だけど、話したら楽になるんだなと思いました。

相談先としてとても親身にアドバイスをくれると思うので、困ったことがあったら聞いてみるといいのでは…と思います。(逆に私は話しすぎました。すみません笑)
悩みがあれば、一人で抱え込まずにすぐに相談することが大切だと思う。周りの人たちを信頼する気持ちを持ってほしい。
私も悩みが絶えなかったけど、「あーこれが思春期か。青春だなー。」と思うと意外と気が軽くなった。
保健室はとても楽しくて落ち着きますが、悩みがある子が来たいと思った時に誰かいるからいけない…と思ってしまわないように、程々の頻度で行きましょう(笑) 体調を崩しやすい人、悩みのある人は遠慮せずに保健室を利用してください。絶対に先生は受け止めてくれます。
僕は高校一年の時、病気が原因で一か月ほど入院しました。体力も成績も落ち、つらい思いをしました。担任や保健室の先生をはじめとした先生方の支えもあり、何とかそれを取り戻すことができました。一浪こそしたものの、志望校に合格することができ、現在は楽しい毎日を送っています。つらい経験は将来きっと役に立ちます。一歩ずつでも前に進みましょう。
勉強をする場所がどこであれ、毎日少なくとも何か続けると後々の自身につながると思う。誰かと話すことも大事です。
高校生活を自分なりにおもいきり楽しんでほしいなと思います。
保健室でリフレッシュして勉強頑張ってください。
どんなことも馬鹿にせず、素直に真正面からむかって楽しんでほしいです(勉強であれ、学校行事であれ)。私はそれができなかった気がして、すごく悔しいです。もう一度高校生に戻りたい!笑
悩める時期があるのはすごく幸せなこと。大切にしてください。友達は一生ものです。勉強は後からでも取り返せます。友達は今だけです。
自分を信じて病気を治そうと思っていれば実際そうなることもあります。物事を前向きに考える努力をしてみてください。
自分が思っているほど他の人は気にしていないだろうし、保健室登校のことも自分の人生の中の一部でしかなくなります。あせらずに。
特に、現状の自分に対して焦りを感じているような人は落ち着いてじっくり自分とまわりに状況について考えてみるといいと思います。そういう人の中には焦りで冷静さを欠いている人がいると思う。
私ではないけれど別の中高に進学した友達で、中高6年間ほぼ不登校だったけど、元気に大学に行って無事就職した子がいます!不登校だったり別室登校であることは必ずしも世間的にはマイナスになるわけではないと思うので、悲観的にならず前向きに行きましょう。いつかいい思い出になると思います。
無理をする必要はないと思います。しかし、次のステップに進むためには勉強なり体力をつけるなりといった準備が必要です。そのためには自らの努力が絶対に必要となってくると思いますので、皆さんなりに頑張ってください。でもやはり登校して、普通に授業を受けるのが一番だと思いますよ。
たまにはゆっくり気を休めることも大切だと思います。でも、自分がこの先どうしたいのか忘れないようにしてください。
保健室で人付き合い、話をするのに慣れることができたので、少しずつ学校生活が楽しくなればいいなと思っています。
無理せず学校生活を楽しんでください。
保健室は居心地がよくて、リラックスできて、いつでも戻ってこれるような素敵な場所だと思います。でも出なきゃいけない授業はできるだけ出してみる、保健室以外の友達とも教室や部活などで話してみる、保健室以外で勉強する時間も作ってみるなどして、バランスの良い学校生活が送れるといいと思います。そして、休み時間・放課後などに何かあったら、何もなくても保健室に戻ってあげればいいと思います。

私にとって保健室は家よりも居心地の良い場所で、一番安心できる場所でした。進学校に入ってしまった、自分が勉強についていけないのに、親からは勉強しろと言われて嫌になっているときも、保健室で先生や友達と話す元気になれたし、ちょっと頑張ってみようと思えました。逃げる場所は大事です。でもそこで話すことで他のことに少しチャレンジしてみようと思うことが必要だと思います。勉強が嫌いでも人生なんとかなります。とりあえず今できることを全力で楽しむことを頑張ってください。変なところでわりきって大人になるのはもっと後で充分だと思います。今の自分は今だけだから、全力で楽しんでください。

私の来室は遊びに来たということが多かった気がしますが、そういう利用だとしても来たいだければいいと思います（先生におこられない程度に）。私は保健室という場を知れたこととたくさんそこで過ごせたことは本当に良かったなあと考えています。でも他の利用者の事も考えて節度ある利用をしましょう。

悩みごととかあったら、気軽に利用してみることをおすすめします。

7. 考察

今回アンケートによって得られた回答は、ほぼすべてが肯定的なものであった。現在なお悩み苦しんでいる卒業生たちにとっては、今回の調査内容は容易に回答できるものではなかったであろうことが予想され、回答してくれた卒業生たちは本校在籍時に抱えていた悩みをある程度乗り越えた者たちであろうと思われる。また、教育相談の対象となっていた卒業生からの回答は1名のみであったことについては、教育相談の対象となる生徒たちは、心理的課題が大きく、進級や卒業要件に関わる学校生活上の適応に大きく困難を示す生徒たちであり、前述のように容易に回答できるものではなかったのであろうと思われる。「養護教諭の関わり及び言動に対する印象」「担任の関わり及び言動に対する印象」「養護教諭・担任以外の教職員の関わり及び言動に対する印象」からは、養護教諭のみによる健康相談、関係教員が個別の時間枠を用意しての教育相談だけでなく、担任及びその他の教職員の日々の関わりが生徒たちの支えとなっていたことが伺える。教育相談においてチーム支援を旨としていることが、生徒の幅広い学校生活の中でも展開されており、またそのことが生徒たちに感じ取られていると言ってよいであろう。また、アンケートの項目中、「後輩へのメッ

セージ」に対して最も多くの記述を得た。その内容からはあたたかく後輩を想っていることが伝わってきた。自らを肯定し、また他者を気遣うことのできる大人に成長してくれていることは、本校教職員として喜びである。このことも、養護教諭や本校教職員、教育相談に携わった大学教員が、誠心誠意をもち生徒の育成に関わってきた結果ではなからうか。こうした結果から、これまでの本校における健康相談・教育相談の取組の方向性は間違ったものではなかったと思われる。今後も本校教職員が丸丸となって、それぞれの個性を活かしながらも、チームとして生徒たちの将来を支えていく姿勢を大切にしたい。

8. 今後の課題

今後も、なんらかの形で、健康相談・教育相談のあり方を点検していく必要があるであろう。今回の卒業生へのアンケートでは、何名かから、「項目が多く、回答することが面倒」という声があった。また、前述の通り、今回のアンケートへの回答者は、悩みをある程度乗り越えた者たちであろうと思われ、卒業後も悩みを抱えている状況では回答しづらかったことが考えられる。今後、同様の作業により点検を行う際には、多くの者にとってより回答しやすいものとなるように、項目や内容を厳選する必要がある。また、日々の健康相談・教育相談については、

今後も支援の区切りは高校卒業としながらも、卒業後の先の人生を見据えた支援を行っていくべきであろうと考える。

9. おわりに

今回、アンケート調査を通し、養護教諭としての過去の支援を振り返る機会を得ることができた。回答をしてくれた卒業生たちが在籍していた当時、自分の思うようにはかき焦る気持ちや、自らの関わりの至らなさを感じて自己嫌悪に陥ることが多々あったことを思い出した。今回卒業生たちの言葉を得て、支援として不十分であり、誤ったものもあったかもしれないが、これまで試行錯誤しながらも生徒一人一人を大切に思い、関わってきたことは決して悪いことではなかったと感じることができた。回答を寄せてくれた卒業生たちに、心より感謝を申し上げたい。また一方で、本校の健康相談・教育相談の取組を振り返り、これからの支援をよりよいものにするためとはいえ、配布されたアンケートを目にしたことにより、傷ついてしまった卒業生がいたかもしれない。彼らにはこの場を借りて深く謝罪したい。そして、彼らのためにも、これからの本校における健康相談・教育相談をよりよいものとしていく努力を、一層重ねていきたい。

参考文献

- 原田克巳(2009) 教育臨床部門に関わる活動報告－平成15年度から平成20年度までの取組－教育実践研究(金沢大学人間社会学域学校教育学類附属教育実践支援センター紀要) 35号 71-77.
- 原田克巳(2014) 教育臨床部門に関わる活動報告(2)－平成21年度から平成25年度までの取組－教育実践研究(金沢大学人間社会学域学校教育学類附属教育実践支援センター紀要) 40号 69-77.